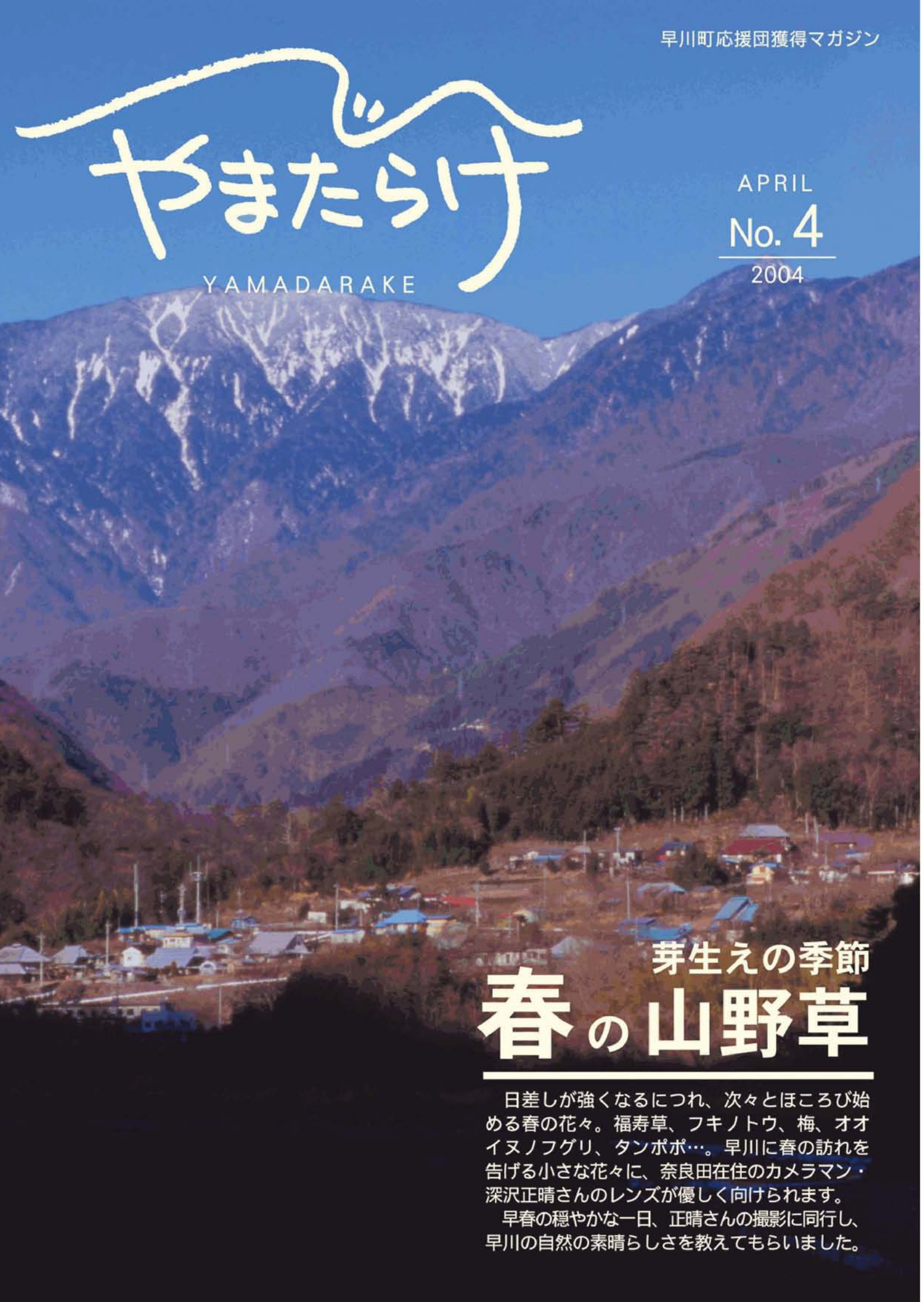
早川町応援団獲得マガジン

やまたらけ

YAMADARAKE

APRIL
No. 4
2004



芽生えの季節
春の山野草

日差しが強くなるにつれ、次々とほころび始める春の花々。福寿草、フキノトウ、梅、オオイヌノフグリ、タンポポ…。早川に春の訪れを告げる小さな花々に、奈良田在住のカメラマン・深沢正晴さんのレンズが優しく向けられます。

早春の穏やかな一日、正晴さんの撮影に同行し、早川の自然の素晴らしさを教えてもらいました。

春 ぽかぽか陽気に誘われて を探しに出かけよう！

立春から10日ほど過ぎた日曜日、深沢正晴さんの撮影に同行させてもらった。前夜からの雨が止み、朝の空はすっきりと晴れ渡っている。正晴さんはお孫さんのはるかちゃんを連れてやってきた。愛用のカメラやレンズについて、一つ一つ説明をしてくれる。普段使っているというペンタックスのカメラを試みに持たせてもらうと、ずっしりとした重みが腕に伝わってきた。

「雨の後だから、いろいろな植物が出てきているかもしれないね。春は一雨ごとに景色が違ってくるからね」と正晴さん。集合した交流センター前の坂道を下り始める。背中にリュック、首にカメラを提げ、三脚を肩にのせて歩く姿は軽快そのもの。

道路脇の民家に咲いているミツマタの花。紙の原料になるこの木の花はクリーム色で、とても清楚な感じ。春の訪れを感じさせてくれる。

○ミツマタ

しばらく歩いて早川の河川敷へ。枯れたススキが目立つ冬の風景かと思えば、足元にはたくさんのオオイヌノフグリが咲いている。

正晴さんは花の写真を撮るとき、対象にぐっと体を寄せてカメラを向ける。早春の花は地面近くに咲いているものが多いので、オオイヌノフグリを撮るときも、タンポポを撮るときも、レンズの位置は地面すれすれになる。ひざを地面に着け、腰を屈めてファインダーをのぞき込む。

「こうやって、違う世界を見てみようと思ってね」

○オオイヌノフグリ

オオイヌノフグリをよく見てみると花弁の青には、濃いものがあったり、淡いものがあったり。小さい花ながらもそれぞれが微妙に違うことに気付く。普段の目の高さから、地面に近い花の位置へと目線を転じれば、正晴さんの言うように日常の中にまた別の世界が開けてくる。

ここから隣の集落まで続く道をしばらく歩く。日当たりのよい道路沿いの梅林では、もう花がほころび始めている。眼下を流れる早川は春の日差しをたたえて穏やかな印象だ。

途中で、前を歩く正晴さんが道を折れて山に入る。枯葉の積もる道をどんどん歩いていくと、足元一面に花畑が広がっていた。福寿草の群生地だ。「次の足をどこに置くのかが問題だよ」と

○フクジュソウ

○ホトケノザ

○フキノトウ

言うくらい、辺りを見回すとあちこちに咲いている。降り注ぐ日の光を集めたかのような黄色い花弁が印象的だ。

「何度撮っても飽きないし、毎回違った発見があるんだ」と正晴さんは言い、カメラを構えて福寿草に近付く。

「もう少し経つといい光が来るんだけどね。撮りたいイメージを描いて、光が理想の状態になるまで待つんだよ。待ってもだめなときもあるけど」

正晴さんはレンズを向けながら、花と呼吸を合わせるかのようにタイミングを図る。周囲の風と光を感じながら。

福寿草の群生地を抜けて、隣の集落へ。正晴さんの目に留まったのは、民家の庭先に立つ風格ある白梅の木。

「あの木、気になってたんだよ」と、軽快な足取りで近付き、白梅と対面。しばらく眺めてからその姿をカメラに収めていく。

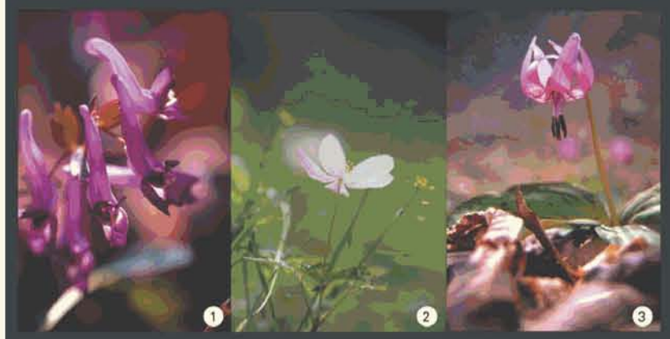
梅の木の下に立つと、時折風に乗って花の香りがほのかに流れてくる。

「いいものを見せてもらったよ。撮影そのものより、こうやって歩いているのが一番楽しいね」

正晴さんにとってカメラは、自然の息吹と対話するコミュニケーションツールの一つなのかもしれない。

（井上　明子）

深沢正晴が紹介する早川の春の山野草



①ヤマエンゴサク
西山農園付近の県道沿いで、４月から５月にかけて見られます。

②イチリンソウ
雑木林の中で５月ごろに咲いています。毒があるのでむやみにさわらないように。

③カタクリ
コレクションの対象して盗掘が進み、個体数が減っています。

④キュウリグサ
町内の比較的南部の野の道で、３月から４月にかけて見られます。

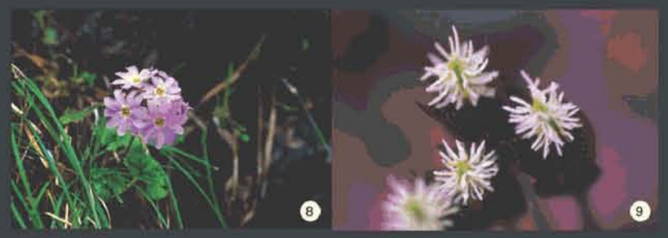
⑤フデリンドウ
町内各所の雑木林で、４月から５月にかけて見られます。

⑥ミツバツツジ
西山温泉周辺の岸壁で、４月に見られます。

⑦ラショウモンカズラ
比較的標高の高い雑木林で５月に見られます。よ～く探さないと見逃しますよ。

⑧クモイコザクラ
山梨県の高山植物保護条例で保護されている植物です。５月に咲きます。

⑨ヒトリシズカ
雑木林の中で、４月にひっそりと咲いています。

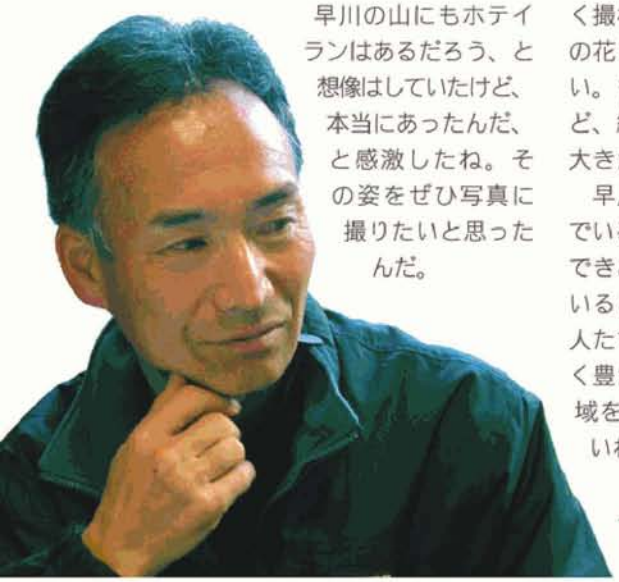


山人インタビュー ①

今回の取材でお世話になった、深沢正晴さんにお話を伺いました。

— 花の写真を撮り始めたきっかけは？

20年以上前のことになるかな。西山の山奥でホテイランと出あったのが始まりだね。それまでは山の写真をよく撮っていた。5月ごろ、ウドを採ろうと子どもを連れて山に登った。コメツガの原生林の中を歩いていたら、ピンク色の花が咲いているのを見つけたんだ。見た瞬間はツツジかと思ったけど、それがホテイランだった。



早川の山にもホテイランはあるだろう、と想像はしていたけど、本当にあったんだ、と感激したね。その姿をぜひ写真に撮りたいと思ったんだ。

— 早川のさまざまな花を撮り続けてきて感じることは？

早川は暖地から亜高山帯まで変化に富んだ地形だから、町全体を見回すと、貴重な植物が意外に身近にあったりするんだよ。

草花の写真を撮るというのは、毎年定点観測しているようなもの。今年は花の数が少ないな、なぜだろう？　と思ったとき、前の夏の長雨の影響かな、とかあの木が倒れたからかな、とかそういったことを観察すると環境の変化が分かってくる。

花の写真を撮り始めたころは、接写向きのレンズを持っていなかったし、なかなかうまく撮れなかった。近寄って撮ってみても、その花らしさやいきいきした感じが表現できない。もう止めようかと思ったこともあったけど、続けてこれたのは、花そのものの魅力が大きかったからだね。

早川の花の写真を撮ることで、自分の住んでいる地域の素晴らしさを発見しているんだ。できあがった写真は、その中に自分が住んでいるというあかし。私の写真を通じて地元の人たちが「早川にはこんなにきれいな花が咲く豊かな自然があるんだぞ」と住んでいる地域を誇れるようになってもらえたらうれしいね。

— これからどんなものを撮っていきたいですか？

花の写真を撮るきっかけとなったホテイラン

撮っても撮っても、これでいいのかなぁと常に思う。そうしてまた撮る。毎年咲く花であっても、まったく同じシーンになることはないからね。完結はないともいえるんだ。

これから初夏にかけては花の多い時期だから、わくわくするよ。歩いていると景色が毎日毎日違って見える。新鮮な驚きがあるんだ。

花の写真だけでなく、「早川の水」といったテーマを設定して、年間を通して撮ってみることもしてみたい。

花が咲いているから、とりあえず撮っておこうという気持ちでは、なかなか気に入る写真は撮れないものだ。写そうという意識が先走ってはいけない。心を動かされたときに、心が思うままに写す。そんな撮影をしていきたいね。

深沢　正晴（ふかさわ　まさはる）

1951年生まれ。早川町奈良田在住。早川の自然と向き合い、その姿を写真に収めている。現在、撮りためた数千枚に及ぶ写真を整理し、データベース化を進めている。

4/25

深沢正晴＋野鳥公園＋足立洋史

早川の春を観察しよう！

やまだらけツアー第三弾

新緑で山々が美しく輝く春。野鳥公園とその周辺を散策し、鳥・花・蝶など早川の春の魅力を発見しましょう。今回のガイドは、深沢正晴さんと野鳥公園のスタッフ。午後からは、流木作家の足立さんと一緒に、河原の石や流木に絵を描いて楽しみましょう！

日時／4月25日（日）午前10時～午後３時頃
集合場所／野鳥公園駐車場（おばあちゃん達の店横）
参加費／大人1000円・小人500円
持ち物／昼食、汚れてもいい服またはエプロン
定員／40名（要申込、先着順、締切４月16日）
備考／午前中は散策、午後はペイントアートの予定ですが、午後は自由に写真撮影など楽しんで頂いても結構です。

親子で参加大歓迎です！

申し込み先：やまだらけ編集部
☎ 0556-45-2160（4月16日締切）

早川の旬直送便

限定二〇〇箱

たんぽぽの会・望月袈裟江さん

「原木しいたけ」いらんけ～

袈裟江さんが裏山で育て、お猿さんの襲撃から必死に守った貴重な椎茸を、一箱1kg 2,500円（送料・税込み）で100箱用意しました。椎茸は鮮度が命。採れたて直送ならではの香りをお楽しみ下さい！４月中旬お届け予定。

限定三〇箱

山で採ってきてやるじゃん！

「天然の山菜」いらんけ～

編集部自らが早川の山に入り採ってきた旬の山菜を、一パック約1kg 3,000円（送料・税込み）でお届けします。30パックのみの限定品。タラノメ、コゴミ、コシアブラなど５種類程度の山菜をがんばって採ってきます！４月下旬お届け予定。

申し込み先：やまだらけ編集部
☎ 0556-45-2160（売切れ次第締切）

■NEXT やまだらけ

次号特集（５月下旬お届け）

「粉を喰らう ～山村の粉食文化～」

米が主食でなかった時代、先人は土地でとれるさまざまな食材を、粉にして食べてきました。そんな山の民の生活の知恵を、美味しく紹介します！

— その後もおもしろ企画が目白押し —

６号（７月下旬）早川流アウトドアのススメ
７号（９月下旬）移住者の早川ライフ
８号（11月下旬）南アルプス温泉郷徹底分析！

■読者の声

●奈良田の歴史と伝統のお料理、老人のお二人が支える旅館とご家族を迎え、また送る淋しさ。私たちも86歳と78歳。心にしみました。伝統を次の世代に残しながらお元気で。（茅ヶ崎市、Mさん）

編集部：「先のことは不安だけど、できる限り地域を守っていきたい」というお年寄りが、早川にはたくさんいます。こうした人が普段通りの生活を続けてくれるからこそ、フィールドミュージアムも成り立つのです。

得情報

５月３日、早川中学校運動場にて、早川町最大のイベント「山菜まつり」が開かれます。この祭りの目玉は、なんといっても山菜の直売ですが、町内のさまざまなグループの出店もどれも面白く見逃せません。やまだらけ編集部も、もちろん出店します。「やまだらけを見た」で、石臼挽きコーヒーを一杯サービスします。ぜひお立ち寄りを！

先日、町内のとある場所に福寿草が咲いたという情報が新聞に載りました。その後、その花を見たいと多くの方が町内にいらしていますが、お客さんが増えてありがたい反面、花を踏み荒らしたり盗掘してしまう方がいるのも事実です。「やまだらけ」は早川がより魅力的になるよう応援してくださる方々への情報誌です。今回の特集が、心ない方々に悪用されないよう十分ご配慮下さい。

山を覗けば宝の山
【やまだらけ】

発行元／フィールドミュージアム運営委員会
住　所／山梨県南巨摩郡早川町薬袋430　〒409-2727
電　話／0556-45-2160　ファクシミリ／0556-45-2268
ホームページ／http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/fm/